

## 第4回 壺屋珠美様

ヒアリング実施日時 2月23日(水) 13:00~14:15



壺屋様がドローンを使用して撮影した写真

### Q1.現在の仕事について

ドローンを始めたきっかけは、山登り好きの友達にトイドローンをあげた際、自分も欲しくなりトイドローンを購入したことだそうです。友達にプレゼントした時は、ドローンに法的な規制があるとは知らなかったそうで、飛ばせるようになりたいと思い、サークルに入って勉強し、その後、ドローンの資格が取得できるスクールに通い、資格を取得したそうです。現在は、印刷会社でデザインの仕事やドローンで動画や写真の撮影をしているそうです。ドローンでは建造物や公園などで、下から撮影できない部分を撮影しているそうです。3年前からドローンを始めており、ドローンを仕事で使う頻度は4ヵ月に1回程度で、社内で仕事としてドローンを扱っているのは壺屋さんだけなので、「カメラマンさんをお願いできないような撮影を自分でできるという強みはできた」とお話をされていました。

### Q2.ドローン業界の魅力

今まで見られなかったものを見られること。例えば、下からしか撮れなかった写真が上から撮ることができるなど、選択肢の幅が広がるのが魅力だとお話しされていました。また、動画を撮って印刷物にQRコードをつけてSNSに配信するなど、今までできなかったことがサービスとして提供できることも、ドローンの良いところだと思っているそうです。印刷物に変わる情報発信の手段としてSNSの活用が求められる中で、ドローンでの動画撮影が合っていたそうですが、仕事に活かせるからドローンを始めた訳ではなく、興味本位で始めたら思いの外、仕事に活かせると気付いたそうです。そのため、趣味の延長線上で仕事に繋がれることも魅力とお話しされていました。現在では、趣味半分という意識だそうですが、趣味としては、1ヵ月に1回か2回の頻度でドローンを飛ばしていて、練習場に行ったり、許可を取って、海や山へ撮影に行くそうです。また、仕事としては、クオリティを求められるため、楽しいだけでは成り立たないともお話しされていました。

### Q3.ドローン業界で働くことの良いところ、辛いところ

仕事でドローンを使用する良い点は、仕事の幅が広がったことだとお話ししてくださいました。人に頼まなければならなかったことが自分でできることや、できないと思っていたことができるようになるという点で、自分の仕事の幅が広がったそうです。例として、撮影した映像の編集作業ができるようになったとのこと。撮影を行うと、撮った映像を他の人にも見てほしいと感じるため、編集を学び、自分のものにしたそうです。

大変なことは、天候に左右されることや想定外のことが起きたときの対応だそうです。天気の良い日に比べて曇りの日は想像する映像が撮れなかったり、撮影するものが予想外の動きをしたりといったことがあり、ドローンの難しさを感じるそうです。また、編集の際にも難しい点があるといいます。編集作業をする際に自分の撮影した映像を見ると、距離やスピード、撮影時間等の面で「もっとこのように撮影すれば良かった」と反省点が見つかるそうです。撮影は一回限りであることも多いため、理想の映像を撮影するためには操縦技術の

向上も必要だと感じており、撮影と編集を繰り返すことで成長していくとお話いただきました。

#### Q4.働く原動力

壺屋さんの働く原動力は一言で楽しさだとお話しされていました。自分が思った通りに撮影できない時もありますが、それを抜いても楽しさが勝るそうです。また、ドローン業界の魅力でもお話しされていた、見られなかった景色が見られることも原動力に繋がるとお話しされていました。

印刷会社での仕事の原動力をお伺いしたところ「お客さんが喜んでくれるのが1番」とお話しされていました。壺屋さんが作ったものに対して「いいものができたね、ありがとう」と感謝されることが原動力になっているそうです。また、「ドローンをやるために頑張ろう」、「週末に楽しみが待っているから頑張ろう」という思いもあるそうです。あとは生活のために仕事を頑張るとお話しされていました。

ドローンの維持費についてお伺いしたところ、ドローンには自動車と同じように資格の更新と保険があるので、ドローンを楽しむためのお金はドローンで稼ごうと思っているそうです。

趣味でドローンを飛ばす時にドローンの仲間やよく会うコミュニティがあるのかお伺いしたところ、このプロジェクトにご協力いただいている千葉さんに誘っていただいて参加しているそうです。周りではドローンの話があまりできないため、ドローンのコミュニティでドローンの話をするのが楽しく、情報交換などを行っているそうです。具体的には撮影した場所や撮影に行きたい場所などの共有や、撮影許可の取りやすさなどもお話ししているそうです。

6月からドローンの規制が厳しくなるため、新しく決められた規制を守って楽しみたいとお話しされていました。

#### Q5.ドローン業界に対する将来への期待

ドローンの1番のすごいところは、人が行けない場所に行くことができることであり、災害など何かあったときに人の助けになったら良いとお話されていました。実際、去年の伊豆の土砂崩れでは、人が入っていけない場所にドローンを飛ばして支援活動のサポートを行っていたので、もっと災害時の情報収集や救助活動にドローンを活用できると良いと思っているそうです。

また、物流にも期待しているそうです。ネットニュースなど、一般の人と同じ情報源からの情報ではあるが、ヤマト運輸がドローンでの輸送の実証実験をしたり、トヨタのウーブン・シティ内での配送などを予定しているらしいので、物流面に期待をしているそうです。普及のためには法律や騒音、空路などクリアしなくてはいけない問題も多いですが、もっと身近で便利なものになれば良いと考えているそうです。国や市町村が動かないとどうしても

できない領域ではありますが、元は軍事技術だった GPS やインターネットなどが身近になっているように、ドローンも身近になる未来が来るのではとお話されていました。

(その他の質問)

Q.5年後10年後ドローン普及しているか？

5年後10年後の普及は難しく、20年から30年はかかるのではないかと考えておられました。バッテリーの持ちや騒音などクリアすべき問題が沢山あることに加え、ドローンを使わない人たちからのネガティブな印象を変える必要があると思っています。ドローンが落ちてきて危ないや、上から盗撮されているのではないかというネガティブな印象を持たれることが多いドローンですが、人の役に立つことができると知ってもらえれば印象も変わるのではないかと考えていますが、すぐに変えられる問題ではないため普及には時間がかかりそうですが、期待はしているとお話されていました。